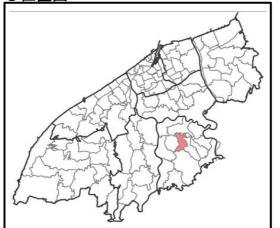
●住所名称

<u> </u>	
大鹿	
北上	
北上新田	
古田	
古田1~4丁目	
さつき野1~4丁目	
新津	
程島	
美幸町1~3丁目	
山谷町1~3丁目	

●位置図

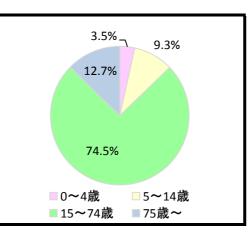


●施設・団体

<u> </u>	<u> </u>	
市役所	f·区役所等	_
警察・	消防	秋葉警察署
消防団	Ē	秋葉方面隊 新津第1分団・新津第3分団・新津第6分団・新津第7分団
水防倉	庫	_
一時退	達難場所	_
広域退	達難場所	_
主利な	幼稚園・ 保育園	新津第三幼稚園/北上保育園
用要 高齢者 施配 福祉施設		健進館、かんばらの里
設慮者	障がい者 福祉施設	

●人口

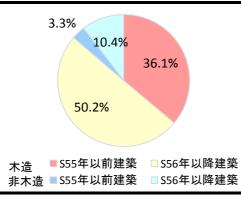
総人口	10,978人	地区の割合	市の割合
0~4歳	383人	3.5%	4.0%
5~14歳	1,020人	9.3%	8.5%
15~74歳	8,183人	74.5%	74.6%
75歳~	1,392人	12.7%	12.9%
65歳以上人口	2,747人	25.0%	26.0%
世帯数	4,063	世帯	
一世帯あたり人口	2.7人/	/世帯	2.5人/世帯
人口密度	,	√ k m i̇́	1,108人/k㎡
昼間人口	7,394人	夜間の67.4%	
		_	



●建物関連指標

	総棟数 5,341棟		地区の割合	市の割合		
+	S55年以前建築	1,929棟	36.1%	44.2%		
木造	S56年以降建築	2,679棟	50.2%	46.7%		
坦	計	4,609棟	86.3%	90.9%		
非	S55年以前建築	176棟	3.3%	3.4%		
木	S56年以降建築	556棟	10.4%	5.7%		
造計		733棟	13.7%	9.1%		
S56年以降建築物		3,235棟	60.6%	52.4%		
S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震						

※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名	標高	階	避難可否			
[ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル·場所	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
[t]新津第三小学校	4.4	3	0	_	2階以上	_
[t]新津第三幼稚園	4.1	2	0		2階以上	_

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

[t]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所		階	避難可否			
	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
t]小合東小学校	3.8	2	0	_	2階以上	_
[t]小合東幼稚園	4.1	2	0	_	2階以上	_
[t]秋葉区総合体育館	4.5	2	0	_	2階以上	_
[t]新津武道館	4.9	1	0	_	×	_
[t]秋葉区新津健康センター	4.6	3	0	_	2階以上	0
[t]新津第一小学校	5.7	4	0	_	2階以上	0
[t]新津第一幼稚園	5.8	2	0	_	2階以上	_
[t]新津第一中学校	5.4	4	0	_	2階以上	0
[t]新津地域交流センター	5.9	3	0	_	2階以上	_

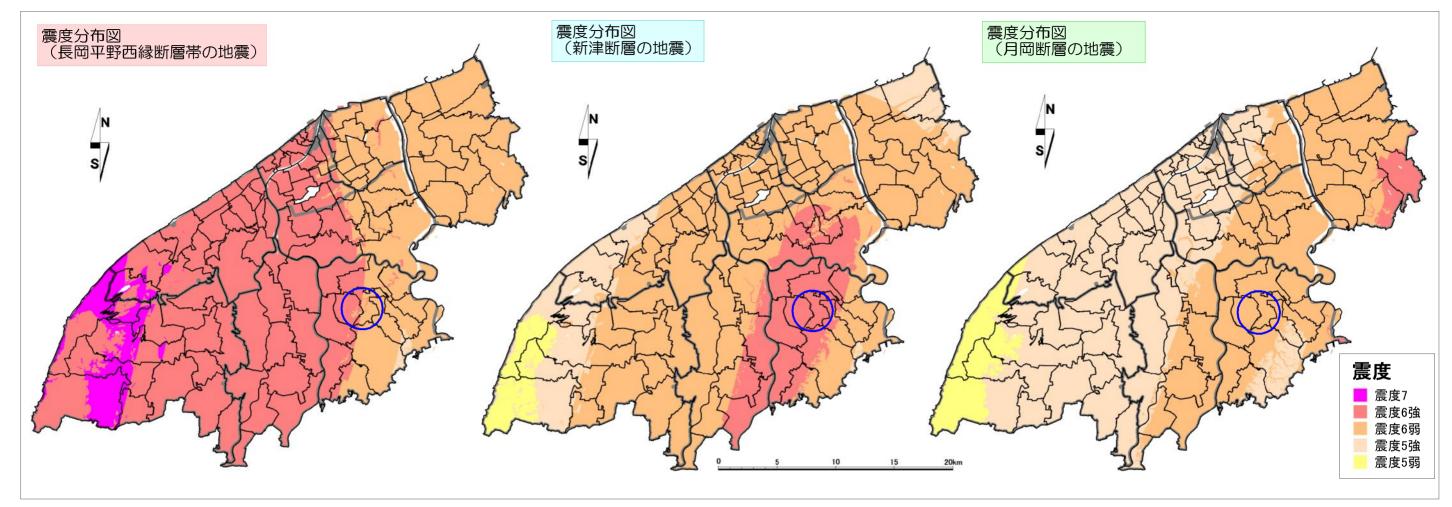
|避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・「避難可能な階数」、開設しない施設を「一」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地区の大部分に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の

土水 よって、浸水の可能性がある。特に、小阿賀野川・能代川の洪水及び東大通川の洪水に 砂・の可能性がある。

様式2 震度分布図 新津第三小学校区



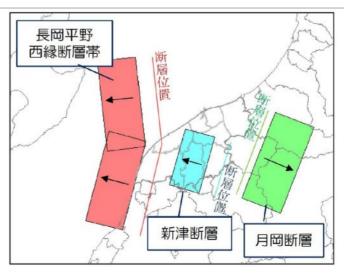
12-			
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模:	7.46	6.45	6.76
モーメント	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード
マグニチュード	7.9に相当)	6.7に相当)	7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年	明確な活動性は明らかになっていない。	平均活動間隔 7,500 年以上
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	断層の活動性 3m/千年程度	月岡断層より、活動性は低いと考えられる。	断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考)国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成27年1月1日) 及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。 【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

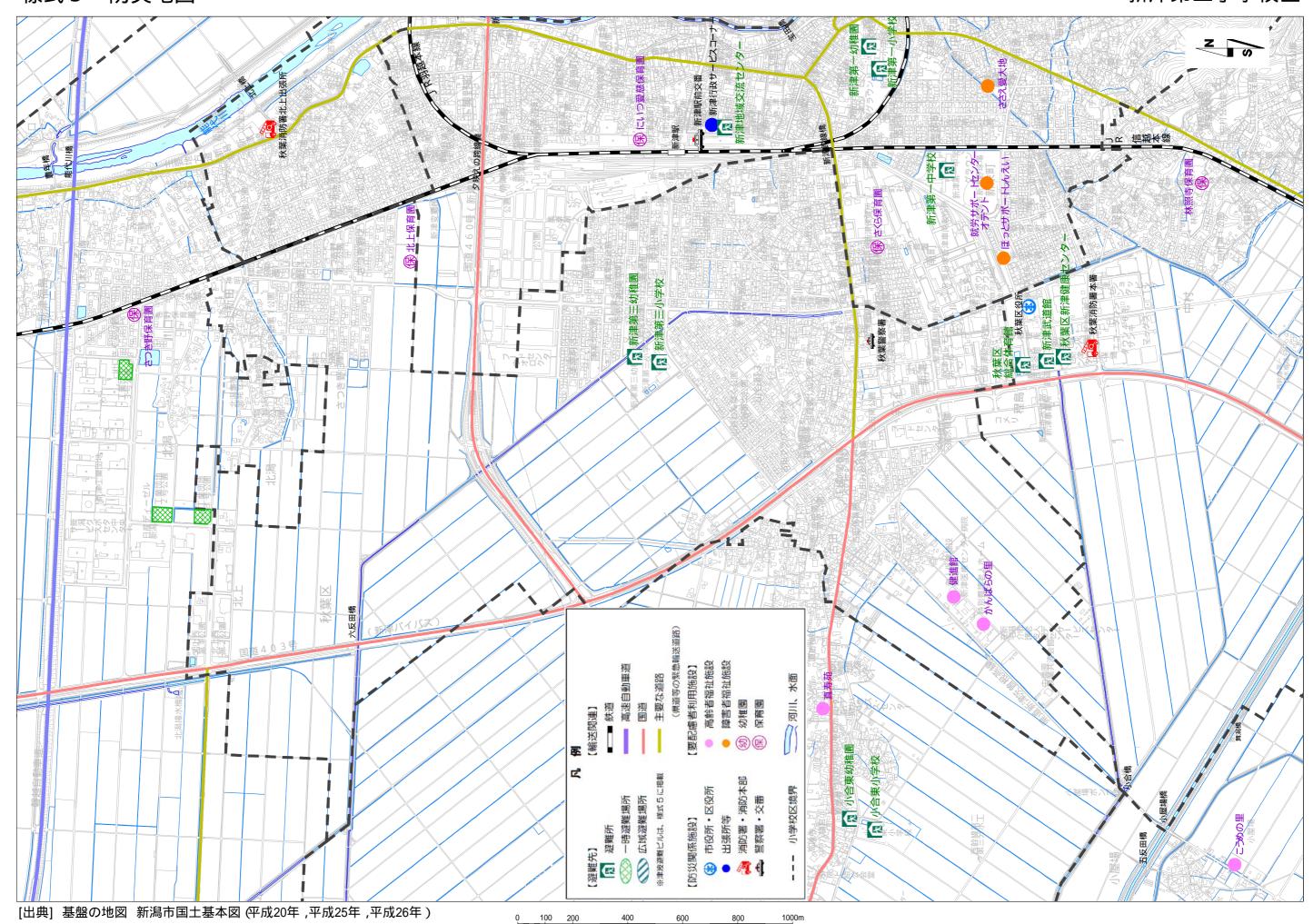
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震 発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は 変わることがあります。

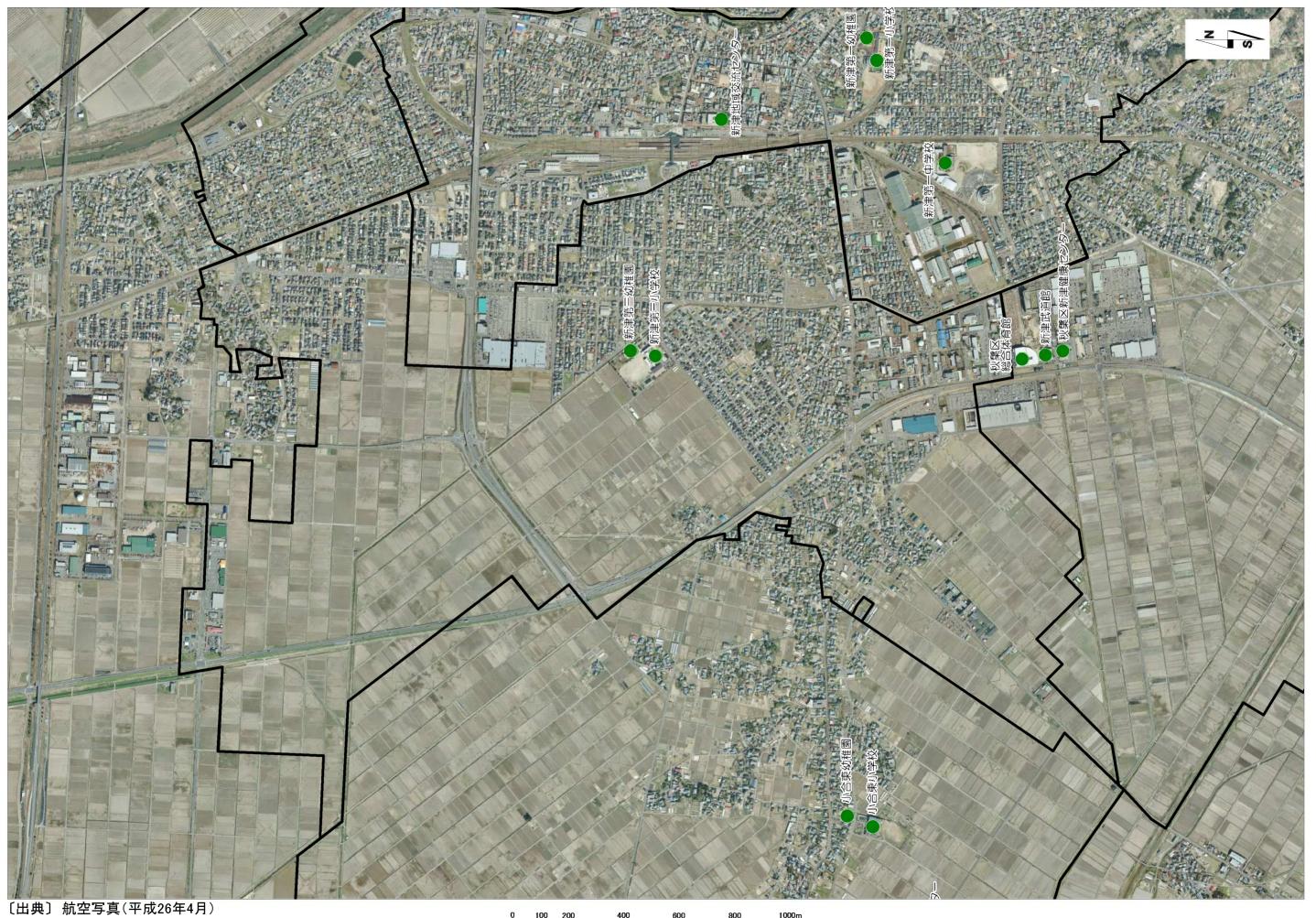
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

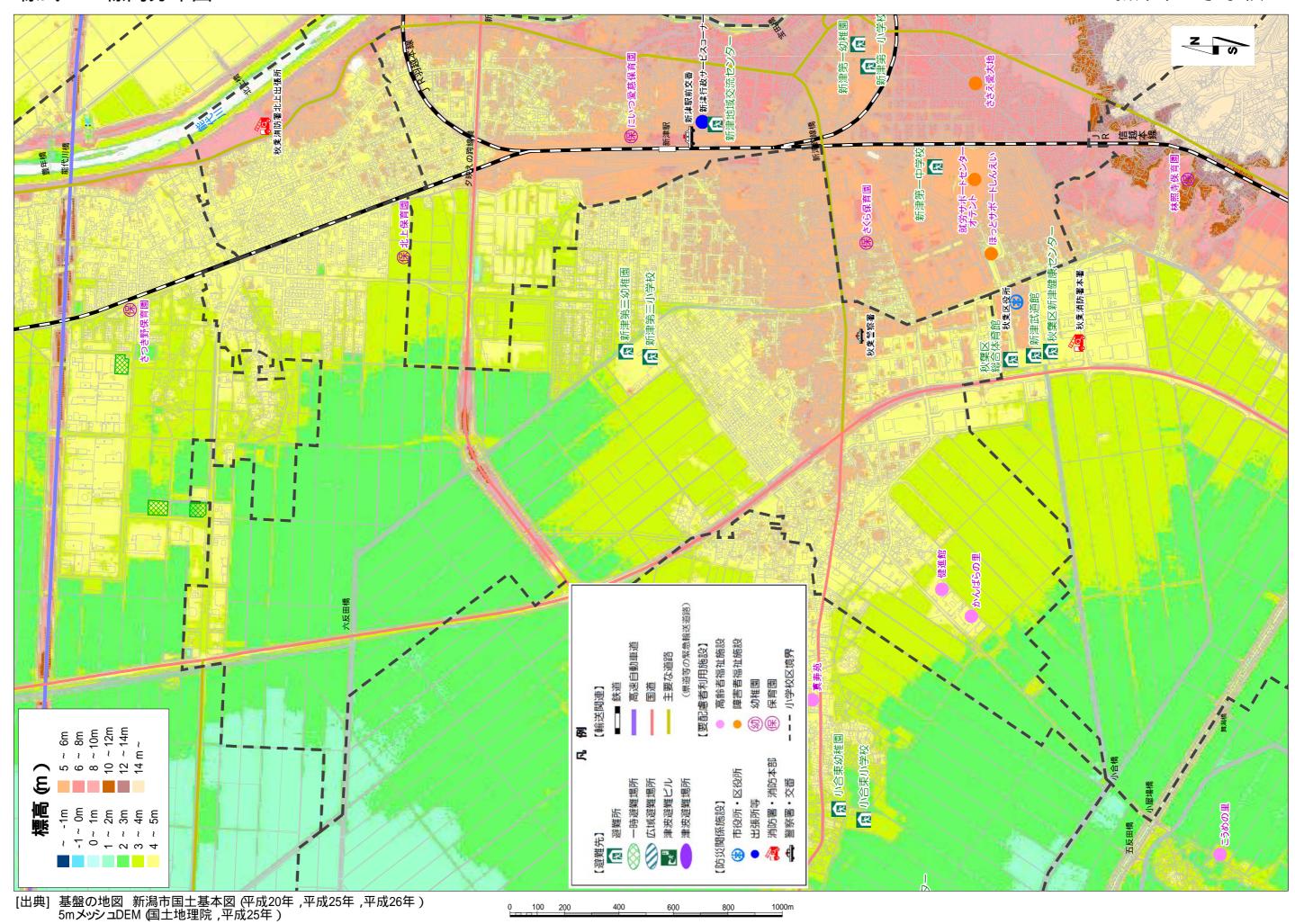
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

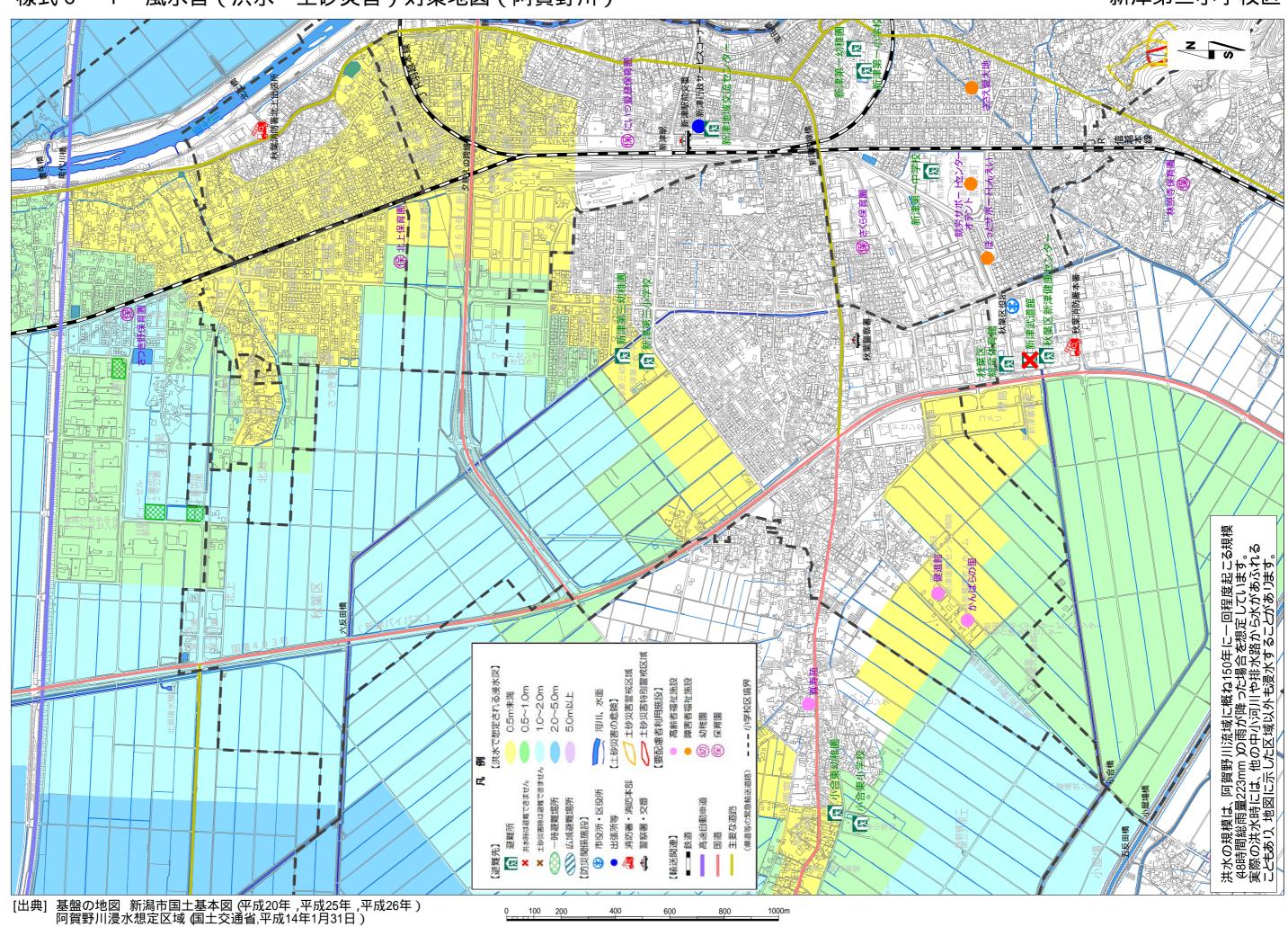


◆ は、断層の傾きを示しています。

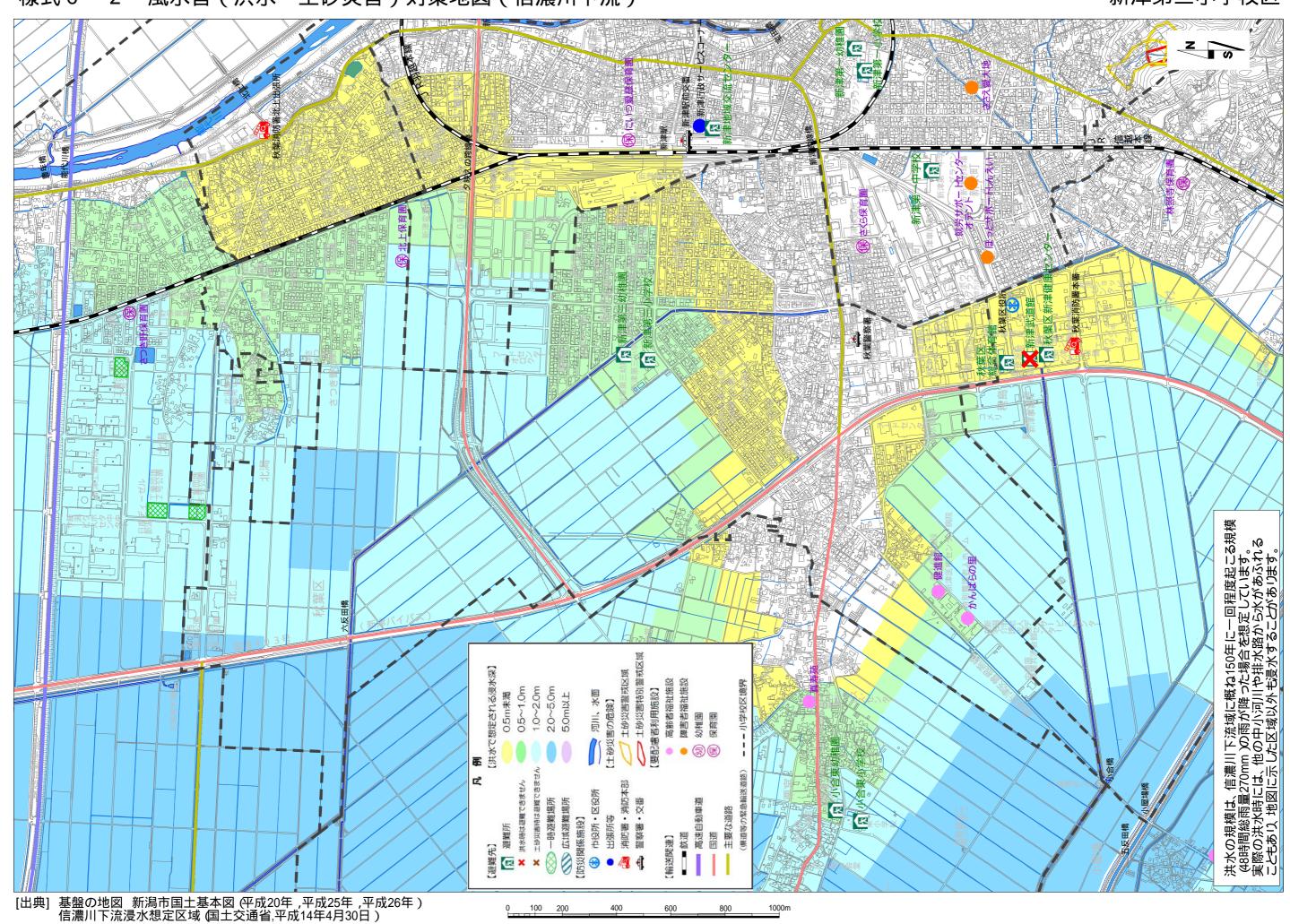


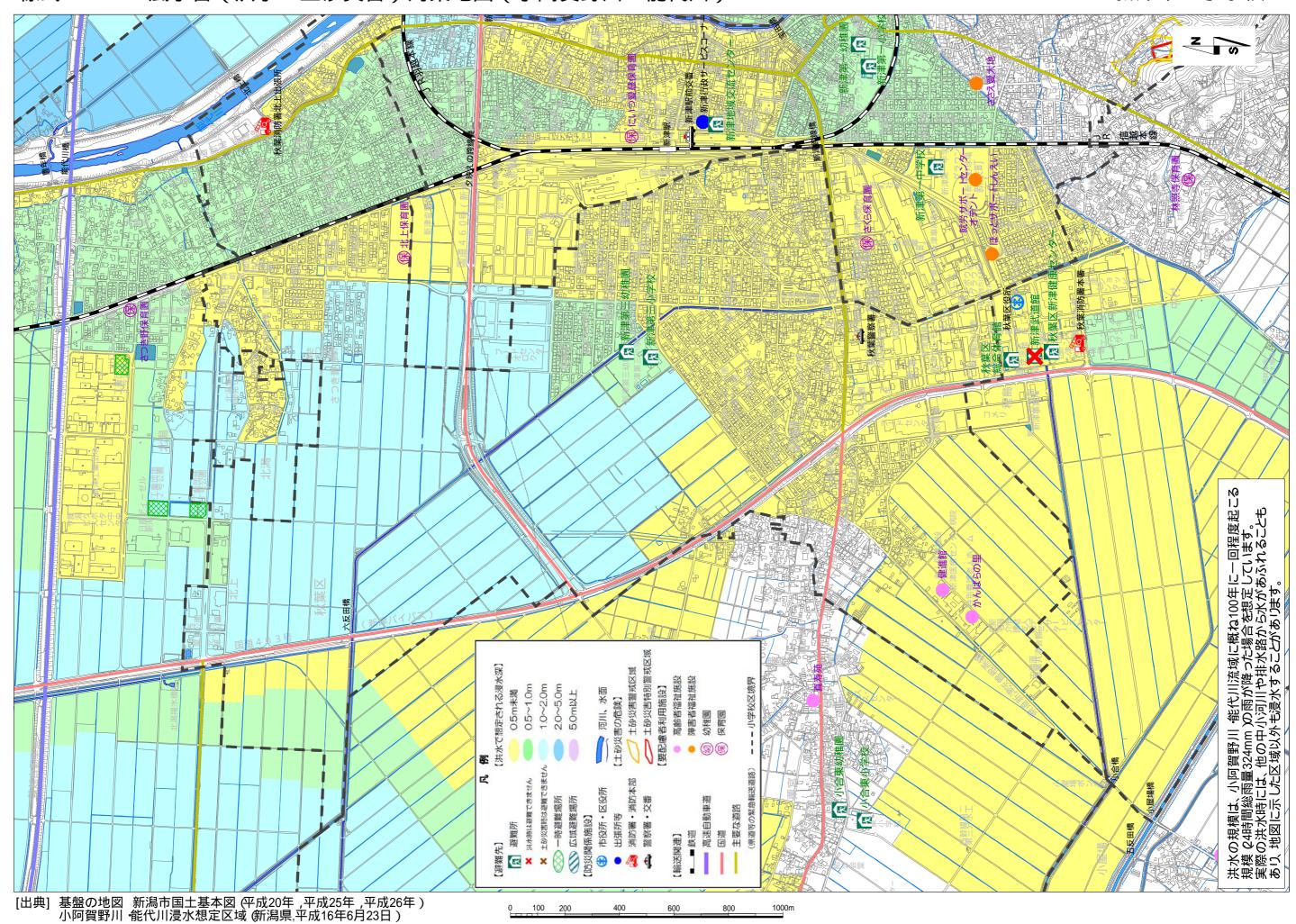






様式6-2 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(信濃川下流)





様式6-4 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(東大通川)

